

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300963
法人名	仁救所有限会社
事業所名	グループホーム あすかちゃんの家
訪問調査日	平成21年3月27日
評価確定日	平成21年4月24日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670300963
法人名	仁救所有限会社
事業所名	グループホーム あすかちゃんの家
所在地	鹿屋市串良町有里3046番地1 (電話) 0994-63-9581

評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成21年3月27日

## 【情報提供票より】(平成21年3月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年12月26日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.1人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋防火隔壁構造		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		840 円	

### (4) 利用者の概要(3月15日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	2名		
年齢	平均 83.1歳	最低	75歳	最高	93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	福留胃腸科 重久歯科
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高い天井やリビングから続くテラスデッキにより、明るく開放的な雰囲気が感じられ、全体としてやさしく木の温もりに包まれている。建物内の長い廊下は、利用者が悪天候の日でも歩行訓練ができるように、設計を工夫して取り入れたものである。職員の定着率は高く、開設当初からの職員も多いため、利用者とは家族のような関係を築いている。周囲には畑が多く、散歩をしながら農作業中の方々と会話を交わすなど、地域との交流を図っている。ホームの畑では利用者も一緒に野菜を収穫し、新鮮な食材を皆で美味しくいただいている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念については、地域の中でその人らしく生活をサポートすることを意識した理念を新たにつくりあげ、ホーム内に掲示するとともに重要事項説明書等に明示するなど改善が図られている。災害対策については、地域の方々の協力もいただき、消防署立会いのもとで防火避難誘導訓練を実施している。また、防火管理者を配置し消防計画書を作成しており、備蓄も行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	職員会議で評価の意義や項目の検討を行い、自己評価に取り組んでいる。指摘があった項目については、話し合いの場を持ち、改善に向けて取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は、入居者(全員)をはじめ、ご家族代表、ホームの全職員に加え、地域代表、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員、消防署員等が参加している。入居者の生活を支える様々な立場からの意見が出され、サービスの向上に活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	苦情相談箱の設置や職員から直接ご家族に問いかけることで、意見や苦情等を気軽に話していただけるように努めている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣で畑仕事をしている住民と交流したり、地域の行事に参加するなどして、周囲から孤立することがないように心がけている。

## 2. 評価結果詳細

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして理解しやすくするために、職員間で話し合い、地域性を取り入れた理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者本位のケアが実践できるように、日頃から職員同士で声かけしたり、職員会議で話し合いの機会を持つように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣で畑仕事をしている住民と交流したり、地域の行事に参加するなどして、周囲から孤立することがないように心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で評価の意義や項目の検討を行い、自己評価に取り組んでいる。指摘があった項目については、話し合いの場を持ち、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者(全員)をはじめ、ご家族代表、ホームの全職員に加え、地域代表、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員、消防署員等が参加している。入居者の生活を支える様々な立場からの意見が出され、サービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問に感じる事や相談事があれば、電話で尋ねたり担当者の所に出向いて問題解決に努めている。運営推進会議以外でも担当者にホームを訪ねてもらえるように働きかけを行っているが、今のところ実現できていない。	○	今後も行政担当者に働きかけ、お互いに行き来できる関係を築き、より密接な連携が図れるように期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の面会をご家族にお願いしており、面会の際に利用者の状況や金銭管理状況等を報告している。今後はホームの敷地内に掲示板を作り、職員の異動や行事等を伝えていく予定にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱の設置や職員から直接ご家族に問いかけることで、意見や苦情等を気軽に話していただけるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職する際は利用者に挨拶する場を設け、区切りをつけるようにしている。現在は離職者が少なく、固定した職員でケアが行えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、内部で勉強会を実施している。外部研修への参加機会は、今のところ十分とはいえない。	○	職員の知識や経験、習熟度に応じて段階的に育成できるように、研修計画に基づいて内部勉強会をさらに充実するとともに、外部研修への参加も積極的に促していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム経営者会議を通して管理者同士の交流はできているが、職員同士の交流機会は持たれていない。	○	同業者同士での研修会や相互訪問など、職員同士の交流の場を設け情報交換することで、互いにサービスの質向上に努めていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族のみの見学で入居を決めることは避け、本人に見学してもらってから、入居を決定してもらうようになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の心の中に入り込み、本人の立場に立って一人ひとりを尊重し、喜怒哀楽を共感しながらケアにあたっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉に耳を傾け、意向の把握に努めている。表現が困難な場合には、表情から推し量ったりご家族から情報を得るなどして、できる限り本人の思いに近づけるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族からケアに対する意向を確認し、職員や関係する人たちからの意見を取り入れながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の体調悪化や職員の意見等から、介護計画の変更が必要になった場合には、早急に対応して現状に沿った介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ドライブや通院の支援など、本人、ご家族の希望に応じて柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人、ご家族から確認した上でかかりつけ医を決定している。受診時はホームでの本人の状況を報告するなど、日頃から医師との連携を図り、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り指針に関する文書を作成しており、入居時に本人およびご家族に説明を行っている。また、状態の変化に応じて繰り返し話し合いの機会を持ち、本人、ご家族の思いの変化に対応できるようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの生活歴を知り、本人の誇りを理解するように努めている。個人記録は事務所で適切に保管して、個人情報の取り扱いに留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いを常に確認し、その人のペースで過ごしてもらえるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	天気の良い日には、テラスデッキにある釜戸を使って調理の下ごしらえをしている。毎日の献立は利用者と話し合っって決め、好きな物、食べたい物が提供できるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴チェック表を作成し、全職員が入浴状況を把握できるようにしている。言葉かけやタイミングを図りながら、楽しく入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	嚙下体操の進行役や洗濯物たたみ、折り紙など、役割や好きな事を毎日の生活に取り入れ、張りのある生活が送れるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩やドライブなど、日常的に外出の機会を取り入れており、気晴らしをしながら身体機能の低下防止にも役立てるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。職員同士の連携を密に図ることで、利用者が安全に生活できるように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携しながら防火避難誘導訓練や救急蘇生法の訓練を行い、緊急時に備えている。また、日頃から災害時の協力を近隣住民に働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が職員として配置されており、栄養バランスの良い食事が提供されている。食事量や水分量は毎日利用者の状況に応じて記録され、全職員が把握できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の生け花や花壇、菜園など、自然な形で季節を感じることができるように配慮されている。テラスデッキにある釜戸や古いラジカセ、畳など、懐かしさも感じさせる。天井が高く明るい食堂スペースは、利用者の憩いの場になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッド以外は、自宅にあった家具や位牌など、本人やご家族の希望に応じて持ち込まれ、住み慣れた雰囲気の中で居心地よく過ごせるように工夫している。		